

令和5年6月13日

カラスと人間の行動変容による カラス対策の検証を足立区と協力して実施します

日頃より宇都宮大学へのご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

宇都宮大学地域デザイン科学部の糸井川高穂助教と宇都宮大学発ベンチャーである株式会社 CrowLab (代表取締役：宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センターの塚原直樹特任助教) は、足立区におけるごみ集積所のカラス対策について、足立区と連携して取り組むことになりました。足立区では、ごみ集積所におけるカラスによるごみ荒らしの被害が多く発生し、住民にとって深刻な生活被害となっています。そこで、株式会社 CrowLab が、カラスに関する知見を使って足立区のカラス対策に取り組み、さらに、行動経済学のナッジの専門家である地域デザイン科学部の糸井川高穂助教が、ごみを捨てる人間の側の行動変容という切り口で協力することとなりました。3者が連携して、カラスと人間の両面からカラスによるゴミ荒らし対策に取り組めます。

なお、本日開催の足立区長の定例記者会見においても同内容が発表されています。



※カラスによって荒らされたごみ集積所

今後「カラスの誘導」と「ゴミ出しの改善」の両面からの対策で被害減少を目指す

これまでの野生鳥獣対策は、捕獲や追払い、侵入防止など、動物側をコントロールする手法が一般的でした。カラスは都市部においても、一般家庭から排出される生ごみなどを餌資源とすることで、人間の生活圏に深く入り込んでおり、人間の側のコントロールも被害軽減には必要となります。本取組では、カラスの生態を踏まえた上でどのようなごみ出しが理想であるか、また、その理想のごみ出しを実現するためにはどうすれば人間の行動変容を促せるかを調査・検討します。その過程において、動物行動学と行動経済学の異分野の知見を用いる学際的研究である点は、とてもユニークな取り組みです。

また、自治体が抱える社会課題の解決を目指す応用性が高い研究であり、その成果は日本全国の同様の被害現場への展開が期待されます。

塚原特任助教と糸井川助教らは、今年度に足立区を訪問し、ごみ出しの実態を調査することで、どのような仕掛けを用いれば、カラス被害に遭いにくいごみ出しにつながるかを試験・検討します。今回の調査・試験は9月まで実施し、今後の足立区のカラス被害対策の施策を提案します。

是非取材いただき、広く周知くださいますようお願いいたします。

<送信枚数 本紙を含め 計2枚>

<担当・問合せ先>

国立大学法人宇都宮大学

バイオサイエンス教育研究センター 特任助教

／株式会社 CrowLab 代表取締役 塚原 直樹

E-mail : tsukahara@crowlab.co.jp